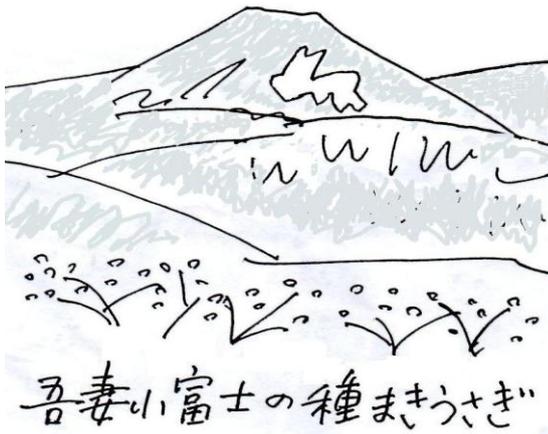


まんが時評

くらさんの目を通して見たちょっと気になる
ニュースにまんがを添えました 倉林 順一



吾妻小富士の種まきうさぎ

私の福島紀行

すなっぷ取材のために福島に行ってきました。放射線量測定器の数値におののき、わが身を差し置いて生徒を思う先生方の姿に胸打たれ、津波に追われた記憶を涙ながらに語る高校生に涙し、人の住まない土地に立って被災者の無念を思いました。震災は今もそこにある、との思いを強くした意義ある旅でした。

阿武隈川

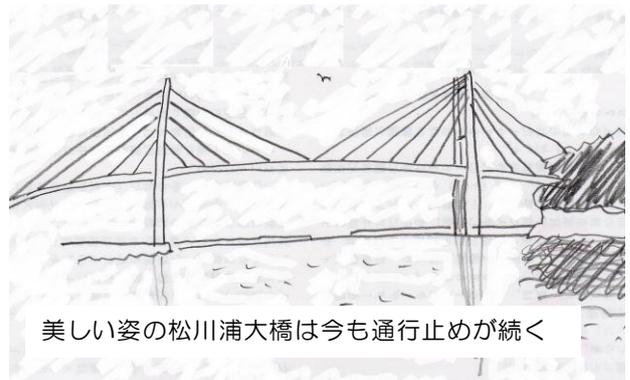
福島市の中心を流れる大河、阿武隈川の堤防の上に立つと、明るい日差しを受けて広い川面がきらきらと輝いていました。福島市民の憩いの場であり快適な散歩道だったことでしょう。でも今は人影はありません。線量計で堤防を覆う雑草を測ったら 1.56 μ Sv。側溝の中は 4.79 μ Sv。思わず身を引いてしまいました。人がいないわけが分かります。福島県立高教組の斎藤毅さんによれば、「阿武隈川は放射線が降り注いだ地域の水を集め、北上して宮城県亘理町で太平洋に注ぐのだが、河口付近の水の放射能汚染は大変なもので、特に漁師たちに大きな犠牲を強いている」とのこと。人に喜びを与え、流域に様々な恵み恵をもたらしてきた阿武隈川が原発事故の被害を拡散しているのです。

飯舘村

山間の村に人影がありません。牛の鳴き声も聞こえません。山の雑木や田に生えた葦が静かに、しかし必死で私たちに訴えかけているような気がしました。

松川浦

私たちの宿は相馬市松川浦の亀屋さん。砂嘴（さし）が形作った自然の良港に面しています。夕食時にご主人が被災時の様子を語ってくれました。この地域で行方不明者を含めて200人近い犠牲者がでたそうですが、少しだけ高い所にある亀屋は津波の被害を免れました。近くの漁協の職員が撮影したという津波の映像を見ましたが、巨大な波が松川浦大橋に届きそうに押し寄せ、津波に抵抗してエンジンを全開にする漁船から黒煙が吹き上がり、灯台が倒れ、撮影者が絶叫し、やがて黙りこくってしまいました。



美しい姿の松川浦大橋は今も通行止めが続く

種まきうさぎ

福島市西方の吾妻（あずま）連峰の中にひときわ姿のよい吾妻小富士が雪をいただいてそびえていました。毎年、4月下旬になるとその山腹の雪がとけて兎の形が現れるそうです。この時期になると霜の心配がなくなるので農家は苗代に種をまくのだそうです。それで「種まき兎」と呼ばれているとのこと。福島の人たちから希望の象徴として親しまれている。うさぎさん！福島の人たちを温かく見守ってください。